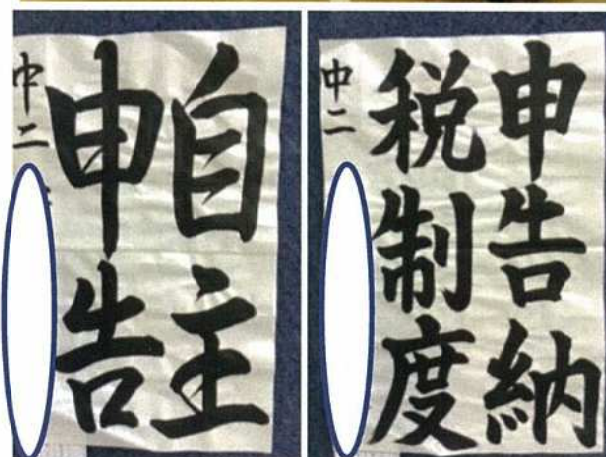


平成 30 年～令和元年度  
鹿児島県租税教育研究会

# 租税教育の実際



令和元年 1 1 月

鹿児島市立清水中学校

# 目次

## 1 はじめに

- (1) 鹿児島市の概要…………… 1
- (2) 校区の概要…………… 1
- (3) 学校の概要…………… 1

## 2 研究の概要

- (1) 研究主題…………… 2
- (2) 主題設定の理由…………… 2
- (3) 研究仮説…………… 3
- (4) 研究の目標…………… 3
- (5) 研究組織…………… 3
- (6) 租税教育全体計画…………… 4
- (7) 研究構想図…………… 5
- (8) 研究の経過…………… 6

## 3 研究の実際

- (1) 各教科の取組…………… 7
- (2) 道徳の時間の取組…………… 10
- (3) 総合的な学習の時間の取組…………… 13
- (4) 生徒会の取組…………… 16
- (5) 租税教育に関する啓発活動…………… 16

## 4 アンケートの実施

- (1) 税に関するアンケート実施…………… 17
- (2) 税に関するアンケート結果…………… 18

## 5 研究の成果と今後の課題

- (1) 研究のまとめ…………… 19
- (2) 成果と課題…………… 21

## 6 おわりに…………… 21

# 1 はじめに

## (1) 鹿児島市の概要

本市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央にあり、北は姶良市、西は日置市、南は指宿市などと接している。市街地は、鹿児島湾に流入している甲突川など7つの中小河川により形成された小平野部にあり、その周辺は海拔100mから300mの丘陵地帯（シラス台地）となっている。また、市街地から約4kmの対岸に鹿児島のシンボル・桜島（標高1,117m）を臨み、2015年に新たに世界遺産に登録された明治日本の産業革命遺産の旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝が位置しており、年間900万人の観光客が訪れる観光都市である。

都市としての出発点は、島津家第6代当主の島津氏久が東福寺城を居城にした1340年頃とみられる。1549年には、フランシスコ・ザビエルが現在の市域に当たる場所（祇園之洲町付近、清水中校区内）に上陸し、日本初のキリスト教伝来の地となる。また、19世紀の中頃にはヨーロッパの機械文明を取り入れた研究が進み、第28代当主の島津斉彬のもと集成館事業が行われて日本における近代工業化の発祥の地となり、近代日本の黎明期、明治維新において政治家、官僚、軍人等数多くの人物を輩出し、近代日本建設の礎となった。

現在は、県の人口の約35%が集中している都市であり、南九州の拠点都市として、政治・経済・文化・交通の中心となっており、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放送や明治150周年を記念した各イベントの開催を経て、地域経済は活気を帯びており、今後、更なる発展が期待されている。

## (2) 校区の概要

本校区は、鹿児島市の東北に位置し、東は磯浜、多賀山に囲まれ、南は稲荷川の清流を帯びて錦江湾に臨んでいる。背後には葛山、西に玉龍山があり、風光明媚にして清浄で騒音もなく、歴史、文化、自然豊かな教育環境に恵まれた地域である。

特に歴史的背景には注目すべきで、島津藩初期の城下町として発展し、森有礼や五代友厚など、有能な学者や文人、武人を多数輩出し、「薩摩の知恵袋」と称された地である。

さらに本校は、室町時代、島津氏の居館跡であり、その後に建立された鹿児島最古の真言宗大乘院の跡地で、薩摩の信仰の中心として隆盛を極めた。

正門入口の五輪塔は、大乘院十二代覚山和尚の墓碑で、市の文化財である。正門前の稲荷川にかかる太鼓橋は、甲突川五橋を造った岩永三五郎が建造した橋で、貴重な文化財であったが、昭和63年の大洪水の被害を受けて、鉄筋コンクリートの太鼓橋（大乘院橋）に架け替えられた。

## (3) 学校の概要

本校は昭和22年5月1日、「鹿児島市立第二中学校」として発足した。昭和24年には「鹿児島市立清水中学校」と改称し、昭和54年に校区の一部より「鹿児島市立坂元中学校」が分離した。

生徒の出身校は、清水小学校と大龍小学校の一部からなり、保護者の居住は下田町、吉田町、坂元町、浜町、上竜尾町、大竜町の一部、東坂元一丁目の全域、二丁目、三丁目、四丁目の各一部、清水町、祇園之洲町、鼓川町、池之上町、稲荷町、春日町、柳町の全域と広範囲にある。「理想」・「根気」・「敬愛」を校訓とし、「心豊かで創造



正門から見た清水中学校

性に富み自ら学び続け実践力のあるたくましい生徒の育成」を教育目標に掲げている。



平成 29 年度 鹿児島 MBC 南日本放送「てげてげ」来校取材

学業はもとより生徒会活動や部活動がさかんである。特に生徒会活動においては「あいさつ・笑顔・無言清掃」を大切にした学校生活に力を入れており、部活動では平成 19 年度には、男子バスケットボール部が、九州大会準優勝、山形全中のベスト 8 の成績を収めており、さらに平成 21 年度の鹿児島全中では鹿児島県勢初の準優勝という成績を残した。また、緩やかなテンポで懐かしさを感じさせる校歌（以下参照）は生徒や保護者、卒業生にも親しまれ、各行事やイベントなどで愛唱されている。

「清水中校歌」（作詞 大園源哉 作曲 武田恵喜秀）

- 1 葛の森の深緑 稲荷の川に影さして さやけく永遠にすむところ  
希望の朝のせせらぎを 聞きつつ今日も励まばや
- 2 豊かに映ゆる桜島 多賀の岩根に日はおどり 若き血潮の磯に寄す  
南の熱き真心を 求めて我等進まばや
- 3 学びの鐘も高らかに 常安峰にこだまして 明け行く国の空青し  
徽章は鶴とはばたきて 輝く明日を築かばや

## 2 研究の概要

### (1) 研究主題

租税教育を通して、公共心を育み、よりよい学校、よりよい社会をつくろうとする態度を育てるにはどうしたらよいか。

### (2) 主題設定の理由

昭和 22 年、「鹿児島市第二中学校」として発足した本校は、70 周年の記念行事も終え、長い伝統の上に生き生きとした積極的な生徒の活動が見られる学校である。

校区内には世界文化遺産の集成館跡地や森有礼や五代友厚など足跡も見られる。有能な学者

や文人、武人を多数輩出し、「薩摩の知恵袋」と称された地で育つ生徒には、かつての郷土の先人たちに習い、広い視野を持ち、恵まれた環境や地域や保護者などの多くの人の支えに感謝の気持ちを感じながら、人のために行動する奉仕の心を持つ、たくましく気高い精神性を身もにつけてほしいと考える。

鹿児島県における租税教育は「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し、行動するための諸能力を育てる」とある。

そこで、租税教育を通して、社会への関心を深め、自分たちが社会から支えられ生きているという実感を持たせたい。伝統ある校舎や教育環境に愛着を育み、公共物を大切に役立てる意識や公共心にも磨きをかけたい。そして、自分たちも社会の一員として社会を支える一人であるという自覚を持たせ、よりよい社会をつくろうという心を育てることが、よりよい学校をつくることや郷土を盛り立てることにもつながると考え、本主題を設定した。

### (3) 研究の仮設

- ① 教科や道徳の授業や租税教育を通して、税の仕組みや働きを知り、租税に対する興味・関心を高め、税が自分の身の回りや社会全体にどのように役立っているかを知れば、公共心が生まれ、社会の一員であるという自覚が湧くのではないか。
- ② 租税教育を進める中で、生徒たちは今、自分たちにできることを考え、学校生活や家庭生活を送るのではないか。また、将来の社会のことを考え、主体的に社会に貢献しようとする公民的資質が身につくのではないか。

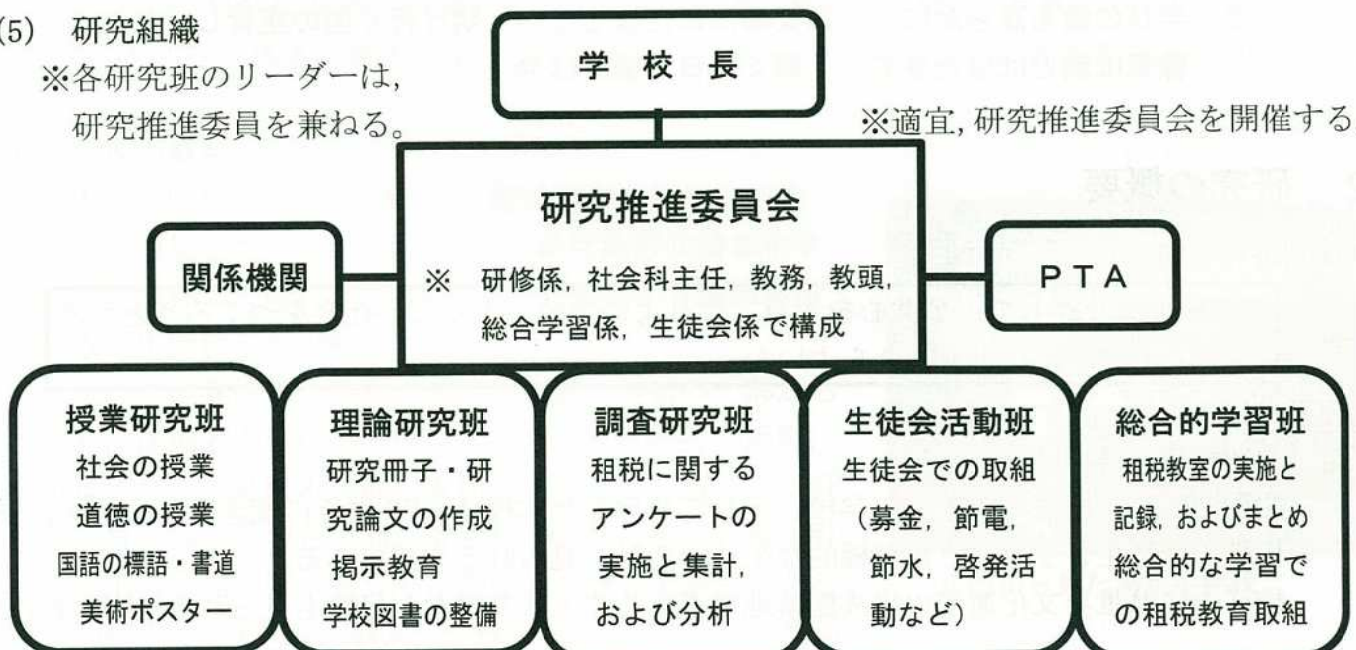
### (4) 研究の目標

- ① 租税に関する興味・関心を高める。
- ② 租税の意義や役割について正しい知識と理解を深める。
- ③ 租税と身の周りの生活との関わりを知り、租税の使い道の理解を深める。
- ④ 公共物や資源を大切にする態度を養う。
- ⑤ 社会の一員としての責任と義務を果たし、よりよい社会をつくるため主体的に行動する態度を養う。

### (5) 研究組織

※各研究班のリーダーは、研究推進委員を兼ねる。

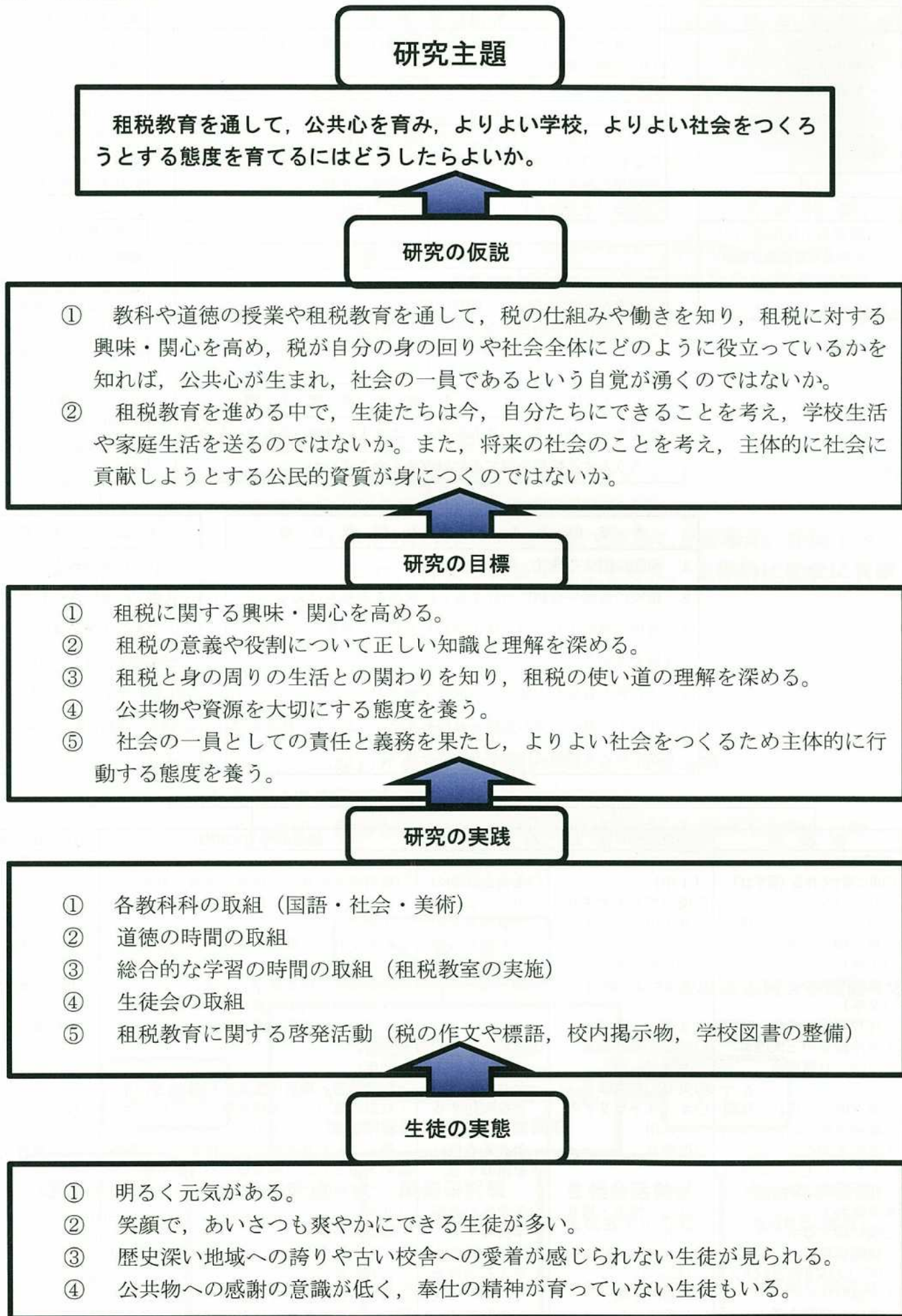
※適宜、研究推進委員会を開催する。



(6) 租税教育全体計画



(7) 研究構想図



## (8) 研究の経過

## ① 平成30年度【1年目】

月	場所・担当など	内 容
4月	職員会議	・租税教育推進校の委嘱の確認
	職員研修	・研究推進委員会の設置と研究組織案の提示
5月～6月	研究推進委員会（租税教育係）	・研究主題の検討及び研究計画の作成
	社会科授業	・租税教育についての意識・動機づけ
7月 (夏季休業)	夏季休業中の課題	・税に関する作文（社会科） ・税に関するポスター（美術科）
8月 (夏季休業)	職員研修	・租税教育研究組織・研究主題・研究目標の検討と確認
	調査統計班	・税に関するアンケートの検討
9月～10月	生徒会	・生徒会による節電・節水・募金などの啓発活動
11月	社会科授業	・第1回税に関する授業の実施（社会科）
1月	講師：鹿児島市税務署職員	・第1回租税教室の開催
	各学級	・第1回税に関するアンケートの実施
2月	職員研修	・租税教育研究の中間報告（各研究班の研究成果の発表）
3月	職員研修	・平成30年度の研究のまとめ及び平成31年度の研究計画案の作成

## ② 令和元年度（平成31年度）【2年目】

月	場所・担当など	内 容
4月	職員会議	・令和元年度（平成31年度）の研究計画の確認
	職員研修	・租税教育各研究班の研究の進捗状況の確認と見直し
5月	理論研究班（掲示係）	・税に関する校内掲示板，図書室掲示コーナーの確認
6月	道徳の時間	・第2回税に関する授業の実施（道徳：価値→公共心）
	講師招聘	・第2回租税教室の開催
7月 (夏季休業)	夏季休業中の課題	・税に関する標語の作成（社会科）
		・税に関する作文（社会科）
		・税に関するポスター（美術科）
8月 (夏季休業)	職員研修	・租税教育研究組織・研究主題・研究目標の確認
	夏季休業中の課題	・税に関する習字（国語科）
9月	各学級	・第2回税に関するアンケートの実施
10月	理論研究班	・活動報告のまとめ，資料作成，発表準備
		・活動冊子の完成
11月	職員研修（租税教育係）	・租税教育の研究発表リハーサル ・鹿児島県租税教育研究会での報告
3月	研究推進委員会（租税教育係）	・研究2年目（令和元年）のまとめ
		・次年度の計画案の作成



### 3 研究の実際

#### (1) 各教科の取組 (国語・美術・社会)

##### ① 国語科での取組

ア 夏季休業中の課題として「税に関する習字」に取り組んだ。

〈生徒の作品例〉



##### ② 美術科での取組

ア 夏季休業中の課題として「税に関するポスター」を制作した。

〈生徒の作品例〉



##### ③ 社会科での取組

ア 1学年全生徒(2年連続)を対象に、夏季休業中の課題として「税に関する作文」を書かせ、「税に関する作品展」に出品した。

イ 2学年全生徒を対象に、夏季休業中の課題として「税に関する標語」に取り組んだ。

ウ 社会科授業における授業実践を行った。次頁はその指導案2つと、授業を受けて生徒の感想を示したものである。

## 社会科学習指導案（歴史的分野）

日時 平成 30 年 11 月 13 日（火） 3 校時

対象 1 年 3 組（男子 19 名 女子 16 名 計 35 名）

指導者 教諭 古田 勇樹

### 1 単元名 「奈良時代の税と現在の税の種類と特徴」

### 2 本時の実際

#### (1) 本時の目標

ア 奈良時代と現在の税金にはどのような種類があり、その分類と特徴から税の役割を考える。

イ 税金を納めることに、どんな意味があるか理解できる。

#### (2) 本時の実際

過程	時間	主な発問や指示	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	5	この写真は何の写真だろう？	東日本大震災により莫大な損害があったことを知り、その復興のため多くの予算が組まれていることを知り、そのお金は国民の税金であることを知る。	東日本大震災から税とは人々がお互いに支え合い助け合うものだということを気づかせる。
		東日本大震災の被害額と復興予算は？	<b>税の種類と特色を知らう</b>	
展 開	10	税金にはどんなものがあるだろう。	自分の知っている税を発表する。 古代の税を予測して発表する。	様々な税の内容を補足して説明する。
	10	税を分類しよう。	税をどこに納めるか、誰が納めるかで税を分類する。	租・調・庸や直接税・間接税・国税・地方税を理解させる。
	5	実際税をどれだけ納めるのかを知らう。 もし税がなかったらどうなるだろう。	さまざまな税の種類、税率・税額を知る。 税が社会資本や公共サービスに使われていることを知る。	奈良時代の重い負担や累進課税を理解させる 一人一人が多くの税金を納めていることを実感し、それが自分達の身近なものにも使われていることを再確認させる。
終 末	10	奈良時代の税と現在の税を比較しよう。	税のあり方が時代にあわせて変わっていったことを知る。	税のあり方が口分田の荒廃を招き、荘園制につながることに気づかせる。

#### (3) 本時の評価

ア 今と昔の税金にはどのような種類があり、その分類と特徴から税の役割を考えられたか。

イ 税金を納めることに、どんな意味があるか理解できたか。

## 社会科学学習指導案（地理的分野）

日時 令和元年7月18日（木）3校時

対象 2年3組（男子20名 女子16名 計36名）

指導者 教諭 古田 勇樹

1 単元名 「世界から見た日本の人口」

2 本時の実際

(1) 本時の目標

ア 消費税増税について考え、自分の意見を持つ。

イ 少子高齢化に伴う現在及び将来の日本の様子について考える。

(2) 本時の実際

過程	時間	主な発問や指示	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	10	国の歳入の内訳を確認しよう。 消費税増税について賛成か反対か？ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">少子高齢化と税のあり方を考えよう</div>	前時を振り返り、国の歳入について復習する。 消費税増税について自分の意見を発表する。	賛成・反対の理由も発表させる。
展 開	10	政府はなぜ消費税を増税しようとするのかその理由を知ろう。	少子高齢化に伴う様々な問題点をデータから読み取り、理解する。 ・出生率の低下 ・将来の人口予測 ・高齢化率の推移 ・介護を必要とする人数の推移 ・医療費の推移 ・社会保障費の推移	パワーポイントを使い、様々なデータを読み取らせる。
	10	日本の税の特色を知ろう。	日本の税の中心が所得税であることを確認し、所得税の長所・短所と消費税の長所・短所を知る。	外国の消費税率を紹介する。
	10	消費税増税について賛成か反対か？	再度、消費税増税について自分の意見を発表する。	個性的な意見は取り上げ、発表させる。
終 末	10	これからの日本のあり方について自分の考えをまとめよう。	本時の授業を振りかえり、これからの日本のあり方について自分の考えを書かせる。	これからより良い国を作り上げるために、一人一人が何をすべきかを考えさせる。

ア 消費税増税について考え、自分の意見を持つことができたか。

イ 少子高齢化に伴う現在及び将来の日本の様子について考えられたか。

### ○「税に関する社会科授業」後の生徒の感想（2年生Aくんの感想）

国の財政が厳しく、少子高齢化のために今後の税収に工夫が必要ということがわかった。そこで特に問題なのは高齢者が増え、子どもが減ってきていることで国民の負担がさらに大きくなるということである。社会保障の充実、国債の返済のために国民が課せられる負担は今後ますます大きなものになる。消費税率を上げるというのはその対策の一つの方法なのかもしれないが、私はこう考える。過去のいわゆる「ベビーブーム」と言われた世代の方々が今の日本の高齢者という位置にある。その方々が亡くなった後、日本は人口は減るものの、各世代の割合がちょうど良くなると思う。加えて2020年、日本でオリンピックが開催される。オリンピックのある年は景気も良くなると思うので、今、消費税を上げなくとも良いと思う。むしろ、オリンピック後の不況の波が来るときに消費税率を考えていった方が良いと思う。消費税が上げれば上がるほど物の値段が高くなり、商品の売り上げが下がる。つまり、国民の財布のひもが開きにくくなるということである。いかにして国民の財布のひもを緩めるかがこの問題を解決するカギとなると思う。

### ○「税に関する社会科授業」後の生徒の感想（1年生Bくんの感想）

僕は、税の種類がここまで多くあるとは知らなかった。国は、とても多くの借金をしていることもわかったし、今のままでは返せないと思った。税の問題は奈良時代の租・調・庸から国民の生活を圧迫しているように思えるが、目的が明確で納得のいくものであれば、それにも少し賛成できるようになった。つまり、税負担にそれぞれの時代の国民が「自分たちにとって必要な支出である」と考えることができるかが大切だと思う。

税負担が重いからとか、少子高齢化社会だからといって、一人一人が自分勝手な行動をしたら社会や国家は成り立っていかないと思う。政治家は国民を思って税のあり方を改善することが大事だし、国民も助け合いや国を守る会費としての納税の義務を果たすことに努力すべきだと思う。未来のことも信じて僕はお金を出したい。

## (2) 道徳の時間の取組

- ① 本校の道徳係を中心に、道徳の時間を利用して実践授業を行った。次頁はその例であり、指導案と教材として使用したプレゼンテーション資料などである。

## 道徳指導案

- 1 主題名 助け合う社会を目指して 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること  
 (2) 公德心, 社会連帯  
 2 資料名 「学校に行けない子どもたち」 参考資料：国際理解教育実践資料集 (JICA)  
 3 本時の実際

(1) ねらい

- ア 学校に行けない子どもたちの現状を知り, 教育の重要性について理解する。  
 イ よりよく生きる社会実現のためには税が必要であるということに気づき, 日常生活において物を大切にする実践へつなげる。

(2) 展開

過程	主な学習活動	時間	主な発問	指導上の留意点
導 入	1. 学校へ行けない子どもたちの現状を知る。	8分	1. この写真を見て, 気づいたことや感じたことは何ですか。	1. 多くの意見を引き出す。  2. 社会の中で生きていくためには基礎教育の必要性(識字)について考えさせる。
	2. 学校へ行けない(教育を受けることができない)とどのような社会になっていくのか考える。		2. 学校へ行けない子どもたちはこれからどのような生活をするのだろうか。	
展 開	3. 学校に行けない理由について考える。(グループ)	8分	3. 学校に行けない理由は何だと思えますか。	3. 資料1を提示し, 多くの意見を引き出す。(グループごとに発表) ・ 資料2を提示し理由を8つ確認する。 4. 資料3を提示する。「薬」「毒」のどちらかであり, 読み書きができないと命に関わることもあるということに気づかせる。 5. 資料4を提示する。自分たちが日常にできることができない現状を理解させる。 6. 資料5を提示する。多くが「負の連鎖」になっている状況を説明する。
	4. 字が読むことができないとどのようなことになるのか考える。	3分	4. 絵の瓶には何が書かれているのかわかりますか? 瓶に書かれている文字はラオスの言葉です。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">左が「薬」で右が「毒」</span>	
	5. 教育が受けられないことで起こる問題は何か考える。(個)	8分	5. 教育が受けられないことで起こる問題は何かと思えますか。	
	6. “負の連鎖”の資料を見て, 教育を受けられないとどのようなになるか, 理解する。		6. 学校へ行けない=教育を受けることができないとどのような生活になるのか考えてみよう。	
(磨き合う)	7. 日本の基礎教育について考える。	10分	7. 日本の教育はどのようになっていますか? <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・ 義務教育(授業料・教科書の無償) → 税 ・ 1年時に配付される教科書代は約¥8,000/人 ・ 授業料1年間に約100万</span>	7. 義務教育の必要性和大切さについて気づかせる。 ・ 県の歳出では教育費の割合が最も高い。
(見つめる)	7. 日本の基礎教育について考える。	10分	7. 日本の教育はどのようになっていますか? <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・ 義務教育(授業料・教科書の無償) → 税 ・ 1年時に配付される教科書代は約¥8,000/人 ・ 授業料1年間に約100万</span>	7. 義務教育の必要性和大切さについて気づかせる。 ・ 県の歳出では教育費の割合が最も高い。
終 末	8. 「税」は互いに助け合いながら共に生きる社会のための「会費」のようなものであることを理解する。	10分	8. 学校環境を考えて見よう。 チョーク, 机, 椅子, トイレ, ボールなどの扱いについて考えてみよう。	8. 「税」は共生のための「会費」のようなものであることに気づかせる。

(3) 評価

- ア 学校に行けない子どもたちの現状を知り, 教育の重要性について理解することができたか。  
 イ よりよく生きる社会実現のためには税が必要であるということに気づき, 日常生活において物を大切にしようとする意識を高めることができたか。

道徳ワークシート

『学校へ行けない子どもたち』

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 ( )

1. 学校へ行けない理由は何だろう。

Blank response box for question 1.

2. 教育が受けられないことで起こる問題は何だろう。

Blank response box for question 2.

3. “負の連鎖”の資料を見て思ったことは何だろう。

Blank response box for question 3.

4. わたしたちの学校教育環境について考えてみよう。また、「税」がなかったら、わたしたちの教育はどのようなになっていたのだろう。

Blank response box for question 4.

5. わたしたちにとって「税」とは何だろう。



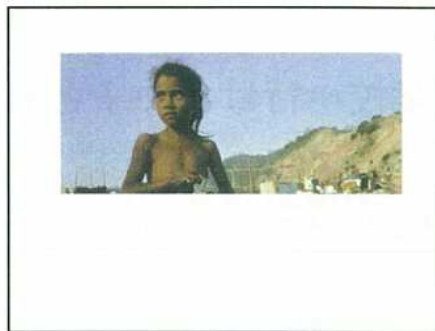
Blank response box for question 5.

ウ 共通道徳の教材（プレゼンテーション資料）

資料1



資料2



資料3



資料4

### 学校に行けない理由

**理由1 学校が近くにない**  
日本には学区があって、近くで学校に通います。しかし、貧しい国や地域では、学校の数が少なく、家からは遠すぎて通えないことがあります。

**理由2 先生がいない**  
先生を育てる仕組みがなかったり、先生に給料を払えなかったりする国や地域があります。また、給料や生活費の問題から、農村地域に先生が行きたがらないということもあります。

資料5

### 学校に行けない理由

**理由3 学校に通うためのお金がない**  
生活をしていくためのお金すら十分に手に入れることもできないため、授業料や教科書代が払えない人が多いです。

**理由4 家計を助ける必要がある**  
家が貧しく、家計を助けるために、子どもでも農業など家の仕事を手伝ったり、外に働きに出なければいけないことがあります。

資料6

### 学校に行けない理由

**理由7 重病にかかった**  
貧しい国や地域では衛生設備が悪いうえに、栄養状態も悪いため、病気にかかりやすく、近くに病院もないために病気が悪くなり、治らない子どもがいます。

**理由8 戦争に巻き込まれた**  
戦争などで学校が破壊されたり、難民として避難しなければならなかったり、時には少年兵として徴用されたりする子どもがいます。

資料7

どうしたらいいのだろう…。

資料8

### 教育が受けられないことで起こる問題

■ 文字の読み書きができない  
読み書きができないことは、仕事や買い物、公共サービスなどでも大きな問題になります。また、選挙権も行使できません。

■ 命を落とす危険がある  
文字が読めないため、薬の分量や用法がわからず、命を落とす危険があります。

■ 貧困がひどくなる  
読み書きができないと、仕事や収入が少なく、貧困がひどくなります。

資料9

### 教育が受けられないことで起こる問題

■ 仕事もできない  
読み書きができないと、仕事もできず、収入もありません。

■ 社会から取り残される  
読み書きができないと、社会から取り残され、生活が苦しくなります。

資料10



資料11

### わたしたちの教育は？

- ① 中学生一人にかかる1年間の授業料は？
- ② 中学一年生で支給される教科書の全額は？

資料12

### 「税」とは…。

わたしたちが  
共に生きる社会の実現  
互いに助け合うための  
「会費」のようなもの

(3) 総合的な学習の時間の取組（租税教室の実施）

- ① 平成31年1月28日（月）、本校1年生生徒を対象に、鹿児島税務署職員を講師として迎えて租税教室を実施した。次頁はその概要である。

## ア 目的

- 税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を正しく認識し、理解させる。
- 今後の社会のあり方について、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する。

イ 場所 鹿児島市立清水中学校体育館

ウ 講師 鹿児島税務署職員

## エ 内容

- 主な税金の種類
- 税金の使い道
- DVD視聴

「税についてもっと知ろう！～野口拓男先生のただいま授業中」

- 税金クイズ
- 今後の課題



## オ 準備するもの

パソコン、プロジェクター、マイク、講師の席、演台 など



## カ 生徒の感想

- 「税金について、基本的なことをDVDで確認できて良かった。DVDに清水中の先輩である野口拓男さんが出ていて親しみを感じた。」
- 「消費税増税を前にして身のまわりの税金について、もっと調べてみたいと感じた。」など。

## キ 考察

租税教育の取組の総まとめとして、1学年全員を対象とした租税教室を実施することができた。長期休業中に生徒が個々に調べて得た税に関する知識や理解の確認になったのではないかと思う。また、次年度への租税教育に関する学習の動機づけとして、良い機会になったと思う。

② 令和元年6月24日（月）、本校2年生生徒を対象に、財務省九州財務局鹿児島財務事務所職員を講師として迎えて租税教室を実施した。次頁はその概要である。



## ア 目的

- 税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を正しく認識し、理解させる。
- 今後の社会のあり方について、社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成する。

## イ 場所 鹿児島市立清水中学校体育館

## ウ 講師 財務省九州財務局鹿児島財務事務



## エ 内容

- 日本の財政の現状について
- 日本の「財政」を考えよう
- グループワークの説明
- グループワーク



日本の財務大臣になったつもりで、予算をつくってみよう。どのような社会にしたいか、考えて発表しよう。(※タブレット端末を用いたグループワーク)

- 各グループによる発表
- 振り返りシートの記入



## オ 準備するもの

パソコン、プロジェクター、マイク、講師の席、演台 など



## カ 生徒の感想

- 「グループごとにタブレット使って歳入や歳出を話し合い、どこに予算をかけるべきかを考えるのは楽しかった。税金をどんなかたちで集めて、どんな面にお金を使っていくかは、本当にどんな国をつくっていくかということだと実感できた。」
- 「消費税を10%にして、今の日本の政府がどんなことに力を入れたいのか、何となくわかった気がした。他のグループの発表をきいて、そんなやり方もありだなあと思うものも多かった。税金に関するだけでなく、それとつながる日本の将来のこともこれからは考えていきたい。」

など。

## キ 考察

タブレット端末を用いた各グループの予算編成会議では、生徒たちが積極的に話し合いを楽しむ姿が見られた。多様な視点から各生徒が予算のアイデアを出し、議論することは生徒の思考を促し、考えを深めていくのに有効であり、財政や予算、税に対する主体的な態度の育成にもつながったように思う。参加型のグループワークの有効性や生徒らのタブレット端末を用いた情報活用や処理能力の高さをあらためて実感させられた。

#### (4) 生徒会の取組

- ① 全校朝会や掲示物を通して、生徒会から節電や節水などを呼びかけた。
- ② 生徒会が本校の実際の電気代や水道代を全校生徒に具体的に示して意識を高めた。



#### (5) 租税教育に関する啓発活動（校内掲示物、学校図書の整備）

- ① 平成30年度から令和元年度にかけて、校内掲示物や学校図書の整備を段階的に行った。

##### ア 目的

図書室利用の際に租税コーナーを目にすることから、日頃からの租税に関する興味・関心を高め、今後の取組に活かす。

##### イ 日時 平成30年度から段階的に

##### ウ 場所 図書室など

##### エ 実際

- 租税に関する図書の購入などを通しての啓発活動
- 図書室における税に関するコーナーの設置や情報の紹介
- 校舎内の掲示「租税に関するコーナー」の設置

##### オ 生徒感想

- 「税に関する作文などを作成するときたいへん役に立った。」
- 「税金の楽しそうな本もあって身近に感じることができるようになった。」
- 「税を考える機会が増え、読んでみたい本も出てきて、興味も出てきた」など。

##### カ 考察

租税教室や生徒会による啓発活動、税に関する授業など、税に関する生徒の活動を増やしていく中で、生徒の憩いの場所でもある図書室に関連する書籍を準備できたことや租税コーナーの設置は相乗効果があったのではないかと思います。図書室の書籍については今後は社会などの教科学習や総合的な学習での利用も見込んでいる。生徒の感想から、図書室を利用したり学校掲示コーナーを設置したりする啓発活動で、租税や財政に関してかたく難しいイメージを少しでも和らげることができたのではないかと思います。



## 4 税に関するアンケートの実施

(1) 税に関するアンケート実施（平成31年1月，令和元年9月に実施）

### 税に関するアンケート

( ) 年 ( ) 組 男 女

1～5の質問はあてはまる項目に○をつけてください。

1. 税について興味や関心がありますか。

ある      少しある      あまりない      (まったく) ない

2. 税に関して家庭で話しをしますか。

する      少しする      あまりしない      (まったく) しない

3. 税金に対するニュースに注目しますか。

する      少しする      あまりしない      (まったく) しない

4. 税金が必要だと思えますか。

必要だ      少し必要だ      あまり必要でない      必要でない

5. 税金に関する学習が必要だと思えますか。

必要だ      少し必要だ      あまり必要でない      必要でない

ご協力，ありがとうございました！

(2) 税に関するアンケート結果

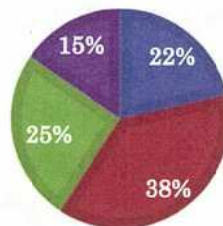
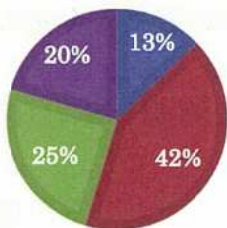
《平成31年1月実施》

《令和元年9月実施》

質問1 税についての興味や関心がありますか。

■ある ■少しある ■あまりない ■ない

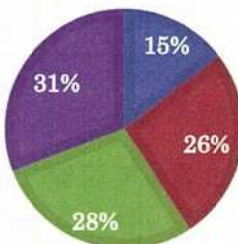
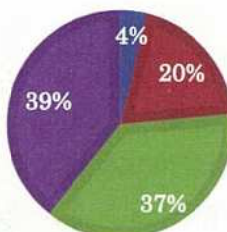
■ある ■少しある ■あまりない ■ない



質問2 税に関して家庭で話をしますか。

■する ■少しする ■あまりしない ■しない

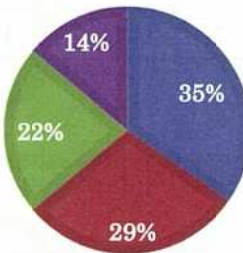
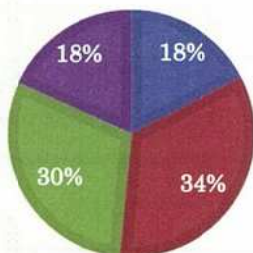
■する ■少しする ■あまりしない ■しない



質問3 税金に対するニュースに注目しますか。

■する ■少しする ■あまりしない ■しない

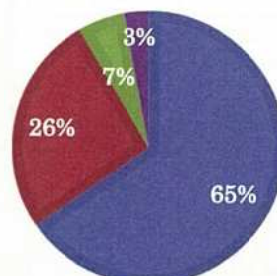
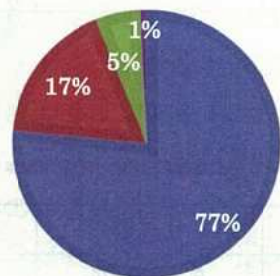
■する ■少しする ■あまりしない ■しない



質問4 税金が必要だと思えますか。

■必要だ ■少し必要 ■あまり必要ない ■必要でない

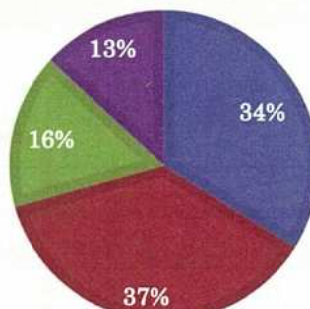
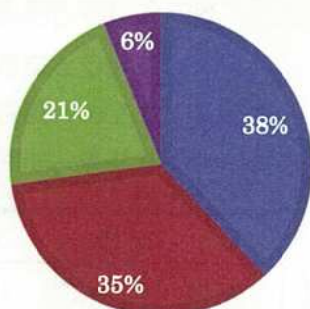
■必要だ ■少し必要 ■あまり必要ない ■必要でない



質問5 税金に関する学習が必要だと思えますか。

■必要だ ■少し必要 ■あまり必要ない ■必要でない

■必要だ ■少し必要 ■あまり必要ない ■必要でない



## 5 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究のまとめ

- ① 税に関するアンケート実施（平成30年度入学の現2年生の意識変化を示したもの）  
 前述の通り、2年間にわたる租税教育を推進しての研究の成果と今後の課題を把握するために、2度の「税に関するアンケート」を実施した。

質問1 税についての興味や関心がありますか。

	ある	少しある	あまりない	ない
平成31年 1月	12.9%	41.7%	25.0%	20.5%
令和元年 9月	21.5%	37.7%	25.4%	15.4%

質問2 税に関して家庭で話をしますか。

	する	少しする	あまりしない	しない
平成31年 1月	3.8%	19.7%	37.1%	39.4%
令和元年 9月	14.6%	26.2%	28.5%	30.8%

質問3 税金に対するニュースに注目しますか。

	する	少しする	あまりしない	しない
平成31年 1月	17.4%	34.1%	30.3%	18.2%
令和元年 9月	34.6%	29.2%	22.3%	13.8%

質問4 税金が必要だと思いますか。

	必要だ	少し必要	あまり必要ない	必要でない
平成30年 1月	76.5%	17.4%	5.3%	0.8%
令和元年 9月	65.4%	26.2%	5.5%	2.9%

質問5 税金に関する学習が必要だと思いますか。

	必要だ	少し必要	あまり必要ない	必要でない
平成31年 1月	37.9%	34.8%	21.2%	6.1%
令和元年 9月	33.8%	36.9%	16.2%	13.1%

## ② アンケートの考察

アンケートの結果、第1回目（平成31年1月実施）の調査結果より第2回目（令和元年9月実施）の調査結果の方が生徒の意識の高まりが認められる。

特に質問項目1～3では、税金についての興味・関心があると答えた生徒が8%増え、家庭で話題にするという生徒も10.8%増加し、税金関連のニュースに注目するという生徒は17.2%増えた。これらは、研究委嘱を受けて実施してきた租税教育の様々な取り組みの成果のあらわれだと思われる。

一方で、質問項目の4～5の税金の必要性や税金に関する学習についての調査結果では、肯定的意見が大多数を占める現状は変わらないながらも、税金が必要でないと答えた生徒が2.1%増え、税金に関する学習が必要だと答えた生徒が4.1%増加し、税金に関する否定的な意見がわずかに増えた。これについては、令和元年の10月に始まった消費税の増税に対する、実質的な出費経験や、租税教育学習を進める過程において学び得た「軽減税率」やキャッシュレス決済に伴う「ポイント還元制度」の難解さ、増税による景気後退への不安などをあおるメディアの影響を受けたものではないかと予測している。

生徒や保護者もふくめた情報リテラシーの力を育てていくとともに、さらに長期的・多角的な視点に立った租税に対する理解力や思考・判断力を身につけさせていくような租税教育の取り組みの質の向上が必要とされていると感じた。

また、研究主題である「公共心を育み、よりよい学校、よりよい社会をつくろうとする態度に育てる」についての変容がデータとしてわかるような質問項目を工夫できれば、今回の租税教育の研究の成果と課題をより明らかにすることができたのではないかと思う。

### 「消費税増税、官民で準備急ピッチ あと1カ月、対応なお遅れ」

プレミアム付き商品券の発行を知らせるポスターが張られた公共施設 = 31日、東京都渋谷区10月1日の消費税率10%への引き上げまであと1カ月になった。全国の自治体は9月から、子育て世帯を対象にプレミアム付き商品券の購入引換券の発送を開始。キャッシュレス決済のポイント還元策は、登録を申請した中小事業者が約51万店（8月29日時点）に達し、官民挙げての準備が急ピッチで進む。一方、飲食料品などの税率を8%に据え置く軽減税率では中小店のレジ更新が遅れており、増税目前になっても不安がつきまとう。



8%への増税直後の2014年4～6月期の実質国内総生産（GDP）は前期比年率7.2%減に落ち込んだ。今回は、景気対策を浸透させることが必須になる。

（2019年8月31日「南日本新聞の記事」より）

## (2) 成果と課題

### ① 成果

- ア 「税」に関するさまざまな取組を通して、税に興味・関心を持ち、役立っていると考えられる生徒が増えた。
- イ 「税」の種類やその使われ方などについて知り、その意義や役割、必要性を正しく理解できている生徒が増えた。
- ウ 「税」について家庭での会話も増えて、職員研修を通じて教職員も学べたことから生徒・保護者・教職員の税に対する意識の向上につながった。
- エ 「税」に関する学校環境の工夫・改善を進めることができた。
- オ 生徒会や生徒個々の自主的な活動を通して、公共物を大切にしようとしたり、自らよりよい学校をつくろうとしたりする意識をひろめることができた。

### ② 課題

- ア 情報リテラシー育成と、長期的・多角的な視点に立った租税に対する理解力や思考・判断力を身につけさせていくような租税教育の取り組みの質の向上が必要
- イ 租税教育に関する、直接的な保護者や地域への啓発活動や連携の強化
- ウ 租税教育に関する、明確かつ継続的な教育課程への位置づけが必要
- エ 生徒の主体的な活動にさらに力を入れ、自ら社会に貢献できる心根の育成
- オ 「公共心を育み、よりよい学校や社会をつくろうとする態度を育てる」ために、各教科、生徒会活動、総合的な学習や道徳の時間の取組の枠に限らず、特別活動や生徒指導など、全教育活動の中で、体系的でつながりのある取組が必要

## 5 おわりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として、本校の課題を踏まえて「租税教育を通して、公共心を育み、よりよい学校、よりよい社会をつくろうとする態度を育てるにはどうしたらよいか」を研究主題に、研究に取り組んできた。各教科、生徒会活動、総合的な学習、道徳の時間やその他の啓発活動など、多方面から、職員が研究班ごとに役割を分担し、協力して取り組むことができた。将来、生徒たちが社会の構成員としての義務を果たすとともに、公共心を大切にしながら信頼を集め、学校生活や社会生活で活躍してくれることを期待したい。まだまだ課題はあるが、継続して「税」や「公共心の育成」に関する研究を行い、充実した租税教育を進めていきたい。鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、鹿児島税務署、その他関係者の方々には懇切丁寧なご指導とご協力をいただき、心からお礼を申し上げたい。

